

栄光学園サッカー部

50周年記念誌



栄光学園サッカー部OB会 編

栄光学園サッカーチーム 50周年記念誌



栄光学園サッカー部50周年記念誌



2002年秋、新人戦。強豪「湘南工大付」にPKで一矢報いる

CONTENTS

アルバム	2	16期	58	42期	112
ユニフォーム進化論	12	17期	60	43期	114
栄光学園サッカー部の五十年		18期	64	44期	116
●石原 博	14	19期	66	45期	118
「JJHAF」とサッカー対抗戦への期待		20期	68	46期	120
●後藤典彦	16	21期	70	47期	122
栄光学園サッカー部50周年のお祝い		22期	72	48期	124
●佃 幹夫（六甲学院）	18	23期	74	49期	126
「サッカー仲間じやけん！」		24期	76	50期	128
●山根 昇（広島学院）	20	25期	78	51期	132
出会い、そして教育としてのサッカー		26期	80	52期	134
●関根悦雄	22	27期	82	53期	136
栄光サッカー部の今 ●円福寺恭司	23	28期	84	54・55期	138
恩師へ、そして恩師から。	24	29期	86	夢へ、一歩ずつ ●柴野明彦	140
the Family of Soccer		30期	88	コーチの中のサッカー風土に出会いに行く	
草創期	30	31期	90	●相川亮一	142
6期	36	32期	92	ある「サッカー・バカ」のこと	
7期	38	33期	94	●大住良之	144
8期	40	34期	96	思春期のサッカー部	
9期	42	35期	98	●高山 智	146
10期	44	36期	100	若人よ「強い栄光サッカー部」を！	
11期	46	37期	102	●泉頭篤二	148
12期	48	38期	104	大三元架空座談会	
13期	50	39期	106	●押本俊明	149
14期	54	40期	108	高校サッカー部員2001の抱負	
15期	56	41期	110	●福本 淳	152



「現役 vs 超OB交流戦」



2001年8月19日。自分の息子よりはるかに若い現役が相手では、如何ともし難く……



「土曜日の午後、現役練習」



高校新チームは柴野先生を中心に、練習の目的を頭に叩き込む



送別会で、3期生（高3）の合唱

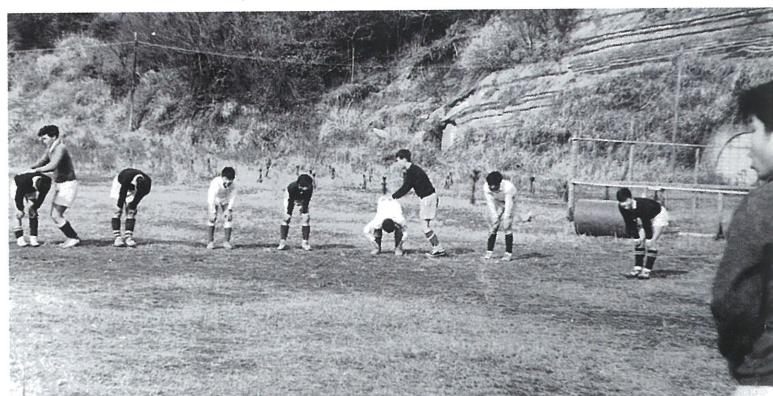


草創期、夏の合宿

「ファミリー」



六甲遠征の折、ジェットコースターに乗る（'57年1月）



田浦グランドでの牧歌的（？）練習風景



恒例の先生チーム VS 中2対抗戦（12期）



サッカー強国出身の先生方と



関東大会で山梨県代表に勝つ(60年7月)



県内敵なしだった10期中心チーム



県代表

13期の全国大会入場式。旗手は吉田キャプテン



「ゴール！」





17期(中3)県大会優勝での胴上げ(三ツ沢)



「勝利」



& JJHAF 杯前夜祭



2002年10月12日

50周年記念パーティー



柴野先生



関根校長



鈴木OB会幹事



後藤同窓会長



鈴木Jリーグチアマン（六甲OB）



前年優勝の六甲がカップ返還



六甲から参加の紅二点



全員で乾杯！



「創部の頃」を語る1期・佐野さん（右）と4期・泉頭さん



「JJHA杯」争奪戦



第1試合に臨む栄光（右）



必勝を期す3校



栄光VS六甲（4—0）



広島VS六甲（2—1）



広島VS栄光（3—0）



10月13日。横浜・東京ガスグラウンド。快晴



第10回



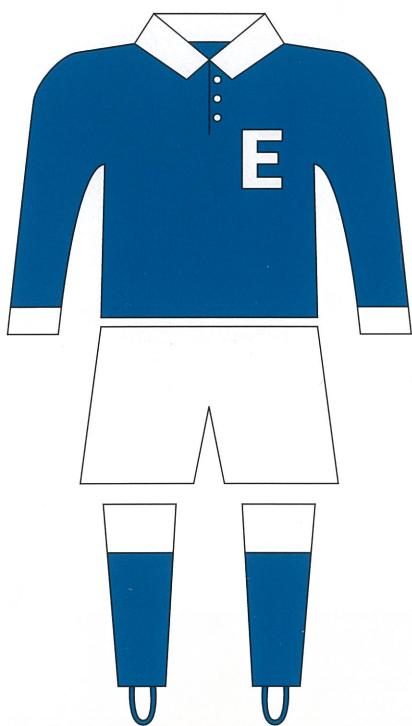
広島が優勝。懇親会にて



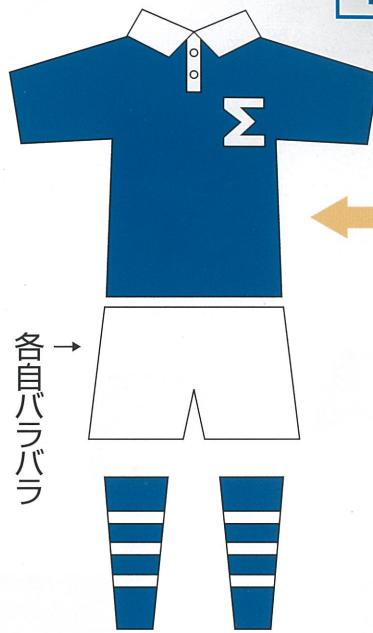
舌戻止まず（六甲VS広島）

ユニフォーム進化論

6期



草創期



各自、家でリリフォーム

海兵隊の作業着
(綿のTシャツ)

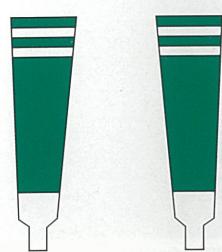
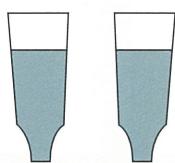
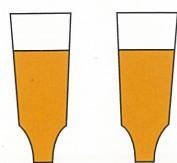
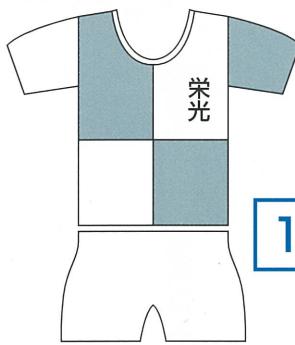
10期

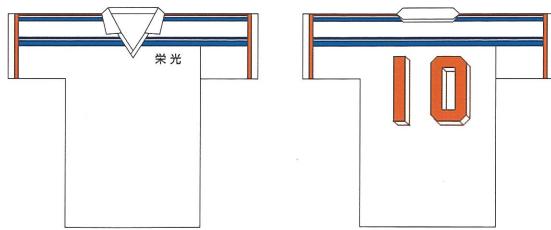


17期

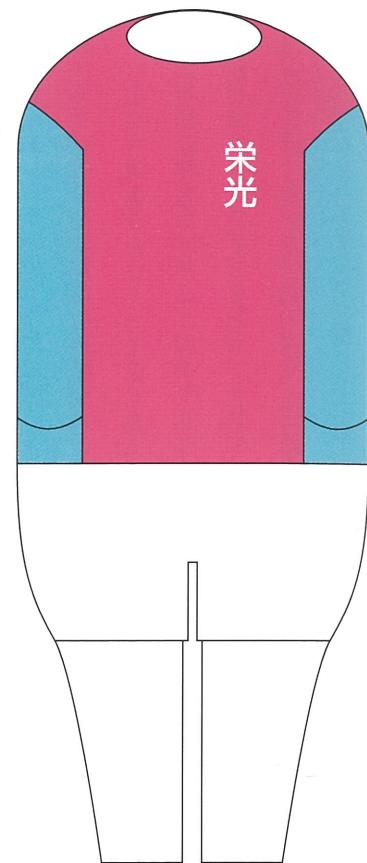
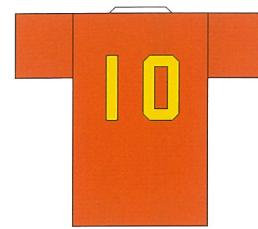
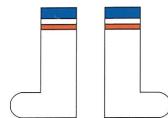


15期





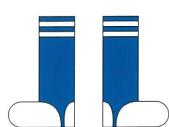
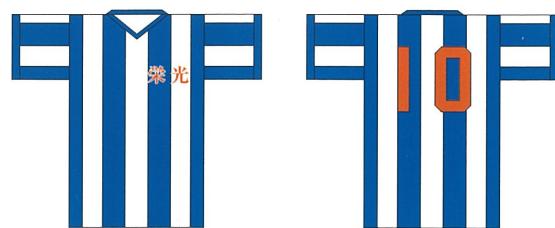
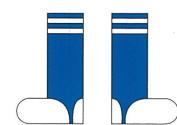
18期



28期

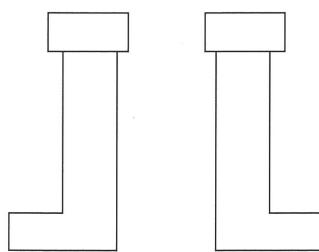


38期



20期

21期



栄光学園サッカー部の五十年

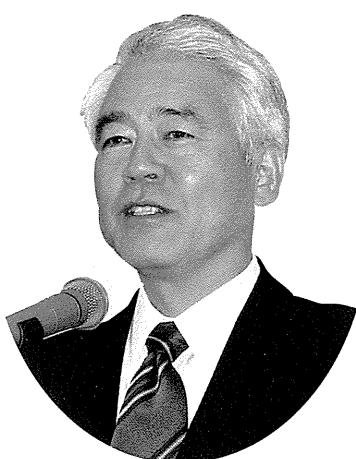
OB会長

石原 博（9期）

栄光学園蹴球部がグランド横の防空壕跡を部室とし、赤いゴムボールを蹴ることで、呱々の声をあげてから50年が経ちました。その歴史の全貌をここに一冊の部史としてまとめ、明らかに出来ることはOB会として、まことに喜ばしいことであります。

ボールは手縫いの天然皮革製ながら、中1十数名に一個しか割り当てられない時代があり、更に今では高1部員がボールの空気入れ作業に使っていた「三ドル」という道具が存在したことでも知らないOBが大半となっています。こうした昔話を持ち出せばきりがありませんが、オフサイドを取りにバックが上がる静岡県の古豪チームを見て、キタナイ手を使うと憤慨した世代から、リフティング百回くらいは常識の世代。田浦世代、大船世代、やはり50年という歳月はそこで行われてきた部活動にも大きな変化を与えていきます。

各期ごとのページには、それぞれの青春が凝縮されて刻まれ、それが太い伝統の縦糸で織り合わされて出来たこの記録が、OB会員各位の手元に置かれ、



少し大きさに言えば後世にも伝えられる訳であります。私は当時の各期先輩が後輩を指導する伝統を実際に良きものであったと評価しております。

初代校長フォス師は、栄光サッカー部からは胸に日の丸をつける選手は出ないと断言されたと聞きました。しかし、ある試合当日の朝にフォス師は、サッカー部員の弱気な発言を聞きつけて当時の神学生コーチに気合を入れられたようで、我々は急遽部室に集められてブランドコーチから「ファイトなければ負けますヨ！」と怒鳴られたことがあります。生徒の本分を第一優先とするという意味でのアマチュアリズムを強調される一方、ひとたびグランドに出たからには負け犬根性は絶対に許されぬとのメッセージだったと思います。

アマチュアリズムと言えば、栄光サッカー部のアマチュアリズムは徹底しており、選手はもちろんコーチもアマチュアリズムで貫かれて参りました。無私の奉仕により栄光サッカー部を連綿と支え続けてこられたこれらの、学生コーチ、神学生コーチ、司祭コーチ、熱血教諭コーチの皆々様に、私は改めて感謝を申し上げたいと思います。お陰様をもちまして、我が栄光サッカー部OB会からは、各業界のプロフェッショナルはもちろん、サッカージャーナリスト、S級監督ライセンシーといったサッカー界のプロフェッショナルをも輩出しております。

この50年史編纂に御努力を頂いた編集プロフェッショナルのOB会員、各期幹事並びに編集委員、新旧ダッショ編集委員の皆様に心から感謝を申し上げて、御挨拶の結びとさせていただきます。



もちろんスパイクなんか誰も履いてなかった先生チームVS中2戦（9期）

創部五十周年をお祝いして

「J J H A F」と サッカー対抗戦への期待

……栄光学園同窓会 会長

後 藤 典 彦

今までこそJリーグを筆頭に、日本のサッカーハンパは他のいくつかのスポーツを凌ぐ勢いであるが、栄光学園創立の頃はサッカーなど「珍しいもの」の代表であつた。東京オリンピックの時でさえ、三ツ沢で行われるサッカーのチケットが「まだ手に入ります」という回覧板が戸塚の我が町内を何周もしていた。

実は私も、中学時代に同期のM君に誘われてサッカー部に在籍したことがある。栄光学園サッカー部は他校に先駆けて活動を始めたこともあって、高校の全国大会に出場するなど、すでに強豪として名を馳せていた。さまざまことに興味を持つていた私にとって、サッカー一筋を期待される練習は負担だったし、ゲームの醍醐味など味わえるレベルに達する前にプラスバンド部に転換されてしまつたが、二年ほど続いたサッカーの練習を通じて得たものは少なくない。

肉体的な疲労や苦痛に対する精神的な抵抗力がついた。自分の頸椎が意外に強靭なものであることを知った。駅の通路で雑踏を縫うようにして走り、発車時刻の迫った電車に素早くたどり着けるようになった。これらのささやかな



「能力」は、その後の人生を生き抜く上で何かにつけてプラスとなつてゐる。とにかく目指す電車に間に合うかどうかというときなどは、余計な出費の有無が掛かっているだけに、最近までしばしば猛烈な「ダッシュ」（これこそキーワードであった）を敢行する「現役」を続けていたほどである。

大学では、体育の授業にサッカーがあつて、さすがにまつたくの初心者に混じると、私にもシユートの機会すら訪れるなどを発見し、無上の喜びを感じることができた。しかし、四年目に教育実習で訪れたK中学校で、生徒がサッカーの練習をしていた側を通り、こぼれ球を蹴り返そうとしたところ右脚がつてしまつたことがあつて以来、プレイヤーの立場には立つたことがない。

さて、時は流れてひよんなことから同窓会の役員を引き受けることとなつたが、ちょうど十年前の一九九一年に、日本でイエズス会が経営する中・高校四校の同窓会が交流を進めるために連絡会を運営していくことになつた。すなわち、東から栄光学園、六甲学院、広島学院、泰星学園の各校同窓会の提携である。その推進母体として「イエズス会校同窓会連絡会」が発足した。これが謎のJJHAFの正体、「ジャパン・ジエズイット・ハイスクール・アラムナイ・フェデレイション」（故R・ラッシュ先生が英語名を命名）の各頭文字にほかなりない。

以後このJJHAFは、イエズス会校の生徒・教職員・卒業生の交流活動を推進するために定期的に運営委員会を持ち回りで開催し、ホスト校の理事長・校長も来賓としてお招きして、交流の実を擧げるよう情報交換と親睦の機会を維持し続けている。今年は第十九回の運営委員会が神戸で予定されている。

そこでサッカーの対抗戦ということになるのであるが、我が同窓会報『栄光アラムナイ』第四一号に、鈴木久仁氏（一七期）の「サッカー部OB会 六甲遠征記」が掲載されている。それによれば、一九九三年九月二十六日（日）に六甲学院のグラウンドにおいて、第一回「JJHAF杯対抗戦」が実現し、栄光・六甲・広島三校の「元サッカーボー少年」たちが結集した。栄光OBはなんと二十八人が参加し、前夜は懇親会で赫々たる戦歴を互いに披瀝し合い大いに盛

り上がつたことである。残念ながら初優勝はお預けとなつたが、戦いを終えてこのような対抗戦による交流がサッカーだけに留まらず、ますます輪を広げていくことを願つた、とある。

幸いにその後も三校の交流試合は継続され、本年は神戸で第九回の対抗戦が実現し、またワールドカップ開催年の二〇〇一年には栄光OB会が主催して横浜での開催を計画しているとのことなので、同窓会としてもできる限りの支援をしたいと考えている。

学校における部活動の衰退傾向が指摘されて久しいが、チームプレイの実践を通して友人としての絆を強め、社会人としての素養を磨いていくためにも、栄光学園サッカー部の活動を末永く援助していただけるよう願つてゐる。それがOB会の発展や姉妹校OBとの交流を通して、ひいては社会への貢献につながつていくに違ひない。

創部五十周年を祝うことによつて、また新たなエネルギーが注入されることを心から期待している。

（一〇〇一年秋）

栄光学園 サッカー部 50周年のお祝い

六甲学院 サッカー部 元顧問

佃 幹 夫

サッカー部創部50周年を迎えるに当たり、心からお祝いを申し上げます。関係者の皆様方には、それぞれに思い出深い年をお迎えのことと存じ上げます。

50年と言いますと私が六甲学院に勤めて3～4年の頃ではなかつたでしようか。クラブ活動に対する制限が厳しく、練習日は一週間に2度でした。それも4時45分下校。涙ぐましい努力で種々大会に臨んでおりました。おそらく姉妹校でも同様のルールが適応されていたのではないかと想ひます。

今はサッカーもボピュラーなスポーツ

ですが、50年前はまだマイナーなスポーツでした。情報と言えるものはほとんどありません。練習方法や新しいシステムを考えるのは大変でした。

この様な時代に、今にして思うと、生まれたばかりの栄光が、イエス会兄弟校の先頭を切って、高校サッカーマン憧れの全国高等学校サッカー選手権大会に初出場を果たされたわけです。

この大会は、豊中（大阪府）に始まり、甲子園（兵庫県）などで開催されておりましたが、戦後は西宮球技場（兵庫県）で長い間続けて開催されておりました。一時大阪に移り、40回前後だと思いますが、首都圏で開催されるようになり、現在に至っているわけです。

栄光が出場された頃は西宮でした。当時は埼玉、静岡、広島が御三家といわれていました。その後、広島が低迷する間、相模工大付属、帝京という関東勢が高等学校サッカー界に台頭、協会の普及強化

活動によるところも大きかった訳ですが、今のように、北から南まで強化され、いつの間にかWorld Cupが開催されるまでにレベルアップされた訳です。歴史は別として、とにかく栄光が出场された頃のことですが、後にメキシコオリンピックで活躍した全日本の中心メンバーが並みいる中でしたが、グランドを駆け回る栄光の選手がたくましく輝いて見えました。

この試合の応援をきっかけに、私たち六甲生は栄光の存在を知る事になった訳です。その後、たぶん何れかの学校におられた神父様の発案ではなかったかと思われますが、姉妹校どうしの交流が始まりました。ただこれも私の怠慢で二、三回で終わってしまいました。誠に申し訳



JJHAF杯OB対抗戦での六甲チーム('93年9月26日)

ないと思つておりますが、本心を言わせて頂くと、この稼ぎ時に親善試合などに時間を取るのはもつたまない。これが本音でありました。休み中の練習まで制限があり、親善試合の日まで練習日にカウントされていたのです。”若気の至り”と言わればその通りで……たゞ、その後はいろいろな大学で、同じユニフォームを着ることになり、兄弟交流が続いたという話を、たびたび聞く事が

が出来るようになりました。

今では姉妹校が4校に増え、同窓会の交流が盛んになる中、スポーツで交流を深めようと言う事から、お互いに活動が盛んであったサッカー部が、真っ先に交流戦を持つ事になり年々盛んになっていきます。今のところ泰星が参加しております。せんが、今後とも伝えて行きたい催しのひとつであると思います。

21世紀の1年目と言う記念すべき年



六甲学院サッカー部の生みの親、ヒルケル先生を囲む7期生(高3)。'49年10月16日の運動会にて

友よ「伝統戦」の創始者たれ!!

Jリーグが始まった1993年に我々の3校OBサッカー対抗戦も始まり、途中「阪神大震災」などの大きな障害を乗り越え、戦いは年を経る度に熱を帯びてきました。想像してみると、オックスフォードとケンブリッジの間で百年以上続いている伝統のレガッタ戦も、始めはきっと数人の腕自慢から始まったのに違ひありません。

3校の中間点にある六甲学院のグランドを中心に、手作りの伝統戦をこれからも開催していくたいと思います。中止するのは簡単で、継続するのは少し努力が必要です。この友好的な伝統を後輩に伝えて行くのが、私たちの使命と考え直し、そしてその夢は膨らみ、百年続くまでやろう、と思い始めております。皆様方のご協力、よろしくお願いします。

六甲学院23期生・対抗戦事務局

万年世話役 湯川 昌明

に、創部50年を迎える栄光学園サッカー部のますますのご発展を、皆様と共に心からお祝いできる喜びと、姉妹校ぞれぞれが励まし合いながら、一日一日新しい歴史を築き上げ、末永く発展していくことを祈りたいと思います。全国大会に始まり、今日までクラブの発展にご尽力された皆様方に、改めてお祝いを申し上げ、お祝いの言葉と致します。

2001年8月吉日



昭和35年、中・高とも神戸市で無敵を誇った(中央が湯川氏)

「サッカー仲間じやけん！」

広島学院 42年卒 サッカー部OB

山根昇

50周年を迎えた栄光学園サッカー

部に姉妹校OBとして心からの祝意と連
帯のエールをお送りいたします。

思い返すに栄光学園を知ったのは入学
の際に頂いた英語の教科書でした。表紙
に金文字で栄光学園と記され、担当の
ハンド先生から君たちの姉妹校で作られ
たものだと説明されたのを記憶しております。

私は広島学院の6期生で、入学時にや

決めおりました。

1956年開校で一期生が中2の頃に
サッカー部を作ったと聞いていますの
で、学院サッカー部の歴史は44年といつ
たところでしょうか。長兄の六甲学院に
12年、次兄栄光学園に6年遅れて開校し
たわけですが、我々のサッカー部も是非
50年、いや100年まで當々と歩みを続
けてもらいたいとOBの一人として切に
願っております。

私は広島学院の6期生で、入学時にや
つと中高が勢ぞろいした記念すべき学年
であるとよく言われたものでした。未だ
卒業生を輩出していない学校に子供を入
学させた親も果敢な判断をしたと思いま
すが、我々はピカピカに磨き上げられた
大理石の廊下と流暢に日本語を話される
外国人神父さんの存在にあっさり入学を

父のお世話で現役とゲームを致しまし

た。その数年後には後輩達が広島から遠
征し、貴校及び奥寺選手を擁した相模工
大附属と練習試合を行ったと聞いており
ます。

さて、レディスマ神父は栄光学園では
如何なるサッカー指導者だったのでしょうか？

「スペイン産の赤鬼」と先輩たちに称さ
れ、開始に遅れるものが居ると練習中止
を宣言され即時に帰宅を命じられ、数日

間は生物の授業でも荒れ狂った、かのレ
デさんですが、我々広島学院サッカー部の原
点です。

陽・国泰寺（旧広島一中）・広大附属（旧

広島師範）・修道と全国大会の優勝校が
割拠していました。

レデさんからは、週に二時間という限
られた練習量で強豪校に負けない戦法と
してWMシステムとキック＆ラッシュの
徹底を指導されました。

ハーフ・バック陣は正確なロングキッ
クを求められ、ゲーム毎に一対一で必ず
エースを倒す役目の「つぶし屋」が指名
されました。

フォワードはペナルティエリヤに一人
立たされ、周りに半円状に並んだチーム
メートルから次々とパスを出され、ツータ
ッチ、ワンタッチ、ダイレクトのシュー
トを疲れて倒れこむまで続けました。

ウイニングプレーヤーはひたすら継攻撃
で活躍を続けていました。高校も山
サッカー部長をされていたレディスマ神

のみ、中に持ち込むと怒られたものです。

コーナーフラッグに向けて同サイドや逆サイドからハーフ・バックがロブを出し、ひたすらそのボールを追つてワイングが走り、折り返してセンターリングかシュート、愚直なまでの繰り返しの中で、中学時代は優勝を重ねました。

昭和41年の夏、呉市で行われた県総体

において、広島学院高校が初めて優勝旗を手にすることことができました。

6・7・8期で作ったチームが勝ち進み、午前中の準決勝で修道に勝ち、午後からの決勝で広大附属と対戦。同点で延長戦を行い、それでも決着がつかず最後は両校優勝となり、優勝旗とカップは半年後に交換と言う約束でそれぞれが母校に持ち帰りました。

県大会で一日に2試合の運営もさることながら、両チームに打診した上で両校優勝の判断など、古き良きおおらかな時代の産物といえましょう。

レデさんのサッカーは、日本人監督以上に精神力を重視していましたが、キックの基礎を重視し中学生には皮スパイク使用禁止という大会要綱があるなど進んでいた広島サッカーワー界にあっても、時代を先がけていたと思っています。

当時、プレー中は水分を取らないことが常識であったのに對し、大きなヤカンを練習・試合にたくさん用意し自由に飲ませていたし、ヘッディング練習用の吊り下げボールも設置し他校の連中が珍しがっていました。更に、ホワイトボードでのフォーメーションの確認とプレーの反省を行った広島初の学校だったと記憶



昭和41年夏、広島県総体で優勝(前列左端がレディスマ先生)

しています。

長々と広島サッカー談義を続けてしまいましたが、10年前に始まつた「J J H A F サッカー大会」が栄光学園サッカー部OBとの新たな接点となりました。

この大会が現在では姉妹校同窓会交流の原点となっている事実をサッカー部OBとして誇らしく思いもしますが、本音を言うと年に一度は東京や神戸のおっさんグループの晴れやかな顔が見たいのです。

クリーンシユートを決めて天に手を突きあげながら飛び上がった小林さんの歓喜に満ちた笑顔、フェイントに引っかかる悔しそうな鈴木さんの顔、たっぷりとお肉をつけた腹をゆすりながら縦横無尽にゴールを走り回ったGKの?さん、なぜか古くからの仲間であるような気がしてなりません。

サッカー仲間は匂いがする。酒で例えるなら地元での商売人が多く闊達な六甲さんはビール、エリートでちょっと気取った栄光さんはワイン、我々広島は焼酎でしょうか。これからもちゃんとばんを楽しく味わいたいものです。

50代の団塊世代を中心的に運営されているこの親善サッカー大会が今後とも継続されることを切に願います。小生と鈴木さんが60歳まで大会に全出席すれば有馬温泉ご招待という約束を六甲さんには是非守って頂けますよう、つけ加えます。

乱文乱筆のほどはサッカー仲間ということでご容赦あらんことを願います。

最後に、嬉々とした坊主たちの中で優勝旗を持っているのが昭和41年当時の小生であります。

出会い、そして教育としてのサッカー

栄光学園校長

関根悦雄



栄光サッカー部が創部五十周年を迎えるに当たり、心からお祝いを申し上げます。

サッカーは今や日本でも超人気のスポーツです。小さい子供たちがボールを蹴つて遊んでいる光景を目にするることは珍しくなくなりました。栄光でもサッカーチームは人気のある部活の一つになっています。Jリーグ結成を機にサッカーの試合がテレビでしばしば放映され、海外のプロチームで活躍できるスター選手も出てくるようになり、その人気はますます上昇しているようです。しかし五十年前はどうと、サッカーがまだ人口に膚欠されています。私は田舎の公立中学の出身ですが、学校でサッカーをした記憶がありません。高校受験のための保健体育で、

「ア式蹴球」という一チーム十一人で競技をするスポーツがありサッカーとも言われると習ったのを覚えています。ア式のアが、association（協会）の頭文字で、soccerがついてサッカーという語が生まれたと知ったのは、だいぶ後年になつてからでした。

四半世紀あまり前、広島学院へ新米教師として赴任し、中学サッカー部の顧問

を一年間務めました。それまでの顧問が病み上がりであつたため、穴埋めを頼まれたのでした。サッカーについては何も知らないなかつたので、本を読んでルールを覚えたり、練習方法をつたりして、放課後の練習につきあつたのを覚えております。パスをつないで攻める練習をさせていると、キックアンドラ

ツシュで行けなどと先輩の教師に言われたりもしました。試合の引率に行って、ラインズマンをさせられたりしたことでも懐かしい思い出になつています。

栄光でサッカーをプレーした皆さんには、チームが勝利を目指すためには、個々人の技術を磨くだけではなく、メンバー同士の意思疎通を図ることが大事で

あることを体得し、その経験を社会に出

てからの活躍に大いに役立てているのではないかでしょうか。後輩たちにも、サッカーの練習や試合を通して、将来社会に出て活躍するための大変な人間的資質をしつかり身につけてもらいたいと願っています。皆さまの今後ますますのご活躍をお祈りいたします。

栄光サッカー部の今

部長

円福寺恭司

50年の伝統をもつに至りましたサッカーチームの現状をご報告させていただきます。

現在、サッカー部は中学を井本先生、

高校を柴野先生が担当し、両先生の熱心

なご指導と密接な連携により、6年間の

学校生活の中で、部員はたくましいサッ

カーマンとして成長しております。部員

数も高校が73人、中学が63人という大所

帯でありますが、生徒の両先生に対する

信頼は厚く、練習中の集中力は、人数の

多さも忘れるほど高いものがあります。

井本、柴野両先生は、県内の選抜チー

ムの指導にもあたられたり、日本代表の

試合を度々観戦されたりする等、指導力

の向上に日々努められています。その成

長は、一昨年度の冬季湘南地区大会優勝、

本年度インターハイ県予選四回戦進出（今回のインターハイ出場校桐蔭学園に善戦空しく敗れましたが）等、目に見え

る形で表れつつあります。

また、両先生は、生徒のために時間を

惜しまれず、練習以外でも、生活全般に

わたり生徒の相談に乗っていらっしゃる

ため、顧問と部員の信頼関係はきわめて

強いものとなっています。そして、こ

の生徒との交流を両先生は楽しめながら

行つていらっしゃるのが何よりすばら

しいことだと思います。

この両先生を補佐する形で福本先生と

私が顧問をつとめております。私も、時

たま、サッカーフィールドに練習を見に行

きますが、学校創立五十周年記念事業で

整備されたグランドで、伸び伸びと練習

している部員を見ますと、すぐれた生徒と教師が恵まれた施設の中で、一丸となって物事に取り組むという理想的な教育場面が実現されていることに、しばし感概にふけったりもいたします。

雨でも練習を止めないサッカー部、下

校時間が遅れがちなサッカー部、等、練

習熱心のあまり、とやかく言われる場面

も無きにしもあらずですが、男子が運動

に打ち込んでいれば、少々周囲が見えて

いない結果が起きたとしても、寛容の精

神で臨むのが、男子校の基本姿勢である

べきだと思います。

角を矯めて牛を殺すような愚は、本校建学以来、無縁のものであつたと思いますし、これからもそうあり続けてほしいと思います。

一部に応援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

50周年誌を作られるために卒業生の方

がグランドにいらして、部員全員の集合写真を撮って下さいました。その写真か

らは、現在のサッカー部の充実ぶりを十分感じ取つていただけるのではないかと思ひます。

熱意ある指導者と多くの意欲ある部員に恵まれ、サッカー部は着実に成長を続けております。歴代サッカー部の先輩方もご安心いただいて、これからもサッカーチームに応援をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

恩師へ、そして恩師から。

東郷寛先生を偲ぶ

3期 須原正美

それで東郷先生はサッカー部専用の本格的なグランド整備をグスタフ・フォス校長に進言し実現にこぎつけられた。以前のグランドでは、練習前に草取と石ころ拾いをしないと満足に練習が出来なかつたので、我々の喜びは大変なものだつた。先生が、平成14年2月11日、ご自宅で亡くなられた。ここに謹んで先生のご冥福をお祈り申し上げます。

今年は、サッカー部創立50周年にあたり、我々OB会もこれを記念して、各種行事や記念誌の発行を通して盛大に祝おうと計画していた矢先のこと、かえすがえすも残念でならない。

東郷先生が部長になられた経緯については、私はあまり覚えていない。ただ就任以来、十数年の長期に亘り部長をつとめられ、サッカー部の発展の基礎を築いて頂いたことに、心から感謝している。

先生ご自身も小柄ながら陸上競技の選手だったこともあり、スポーツには理解がありだつた。昭和27年の春、高校2年の佐野碩さんと中学3年の生徒数人で立ちあがたサッカー部の小さな芽を大切に育んで下さつた。特に当時のグランドは非常に狭く、野球部と陸上競技部との共用で、練習中にたびたび諍いがあつた。



なつた。ゴールポストにしても、最初のものは足場丸太に青いペンキを塗ったお粗末なものだつた。規格どおりの寸法の角材で本格的なゴールが出来た時は、こんなに大きく、また広いのかと思った。真っ白なポストが眩しかつた。ニューボールの「蹴り初め」は何ヶ月かに一度のちよつとしたイベントで、皆でじゃんけんをして順番を決めていた時代だつた。

先生は練習に関しては、ほとんど口出しされなかつた。自立の精神を尊重され、我々にすべてを任せられた。そのため、我々は、手探りで、規則をはじめ、練習の方法や試合運びを如何にするかを学ばざるを得なかつた。上級生が下級生を指導する中で、ファミリー・オブ・サッカーの雰囲気が生まれた。先生は先生で、まともな用具や施設がほとんど無かつた時代に、あのフォス校長との間に立たれ、人知れず悩み、苦労をされたことと今にして思う。県大会の決勝戦や、国体への出場を辞退させられた部員の反発、落胆は大きなものだつたが、先生もどんなに悔しく、辛かつたに違ひない。ただ東郷先生にはスポーツマンシップを大切にする心と、サッカー部の発展を長期にわたりて存続・発展させたいという強い意

志がおありだつた。

先生には对外試合に、必ず応援に来ていただいた。合宿や六甲学園への遠征等会設立後も総会にはたびたび出席された。数年前、脳内出血で倒れられ、右半身が不自由になられたが、持ち前の頑張り精神を發揮されていた。JJHAF杯3校対抗戦が横浜で行われた折にも、前夜祭に車椅子で出席され、元気なお姿を見せられていた。

現在サッカー部OB会の会員数は50期生を含めると803名に達し、栄光同窓会の中でも最大規模の組織である。石原博会长を中心に行各幹事が協力しながら学校や後輩との連携を保ちつつ、会員相互の親睦をはかり、会の発展に取り組んでいる。

私は、サッカー部創立30周年記念祭の挨拶で、「30年続くものは50年続き、50年続いたものは100年続く」と、歴史の当真先生の言葉を引用させていただいた。創立50周年を迎えるにあたり、この言葉をもう一度思い起し、新世纪における、サッカー部OB会の一層の発展を誓い、改めて先生のご冥福をお祈りする次第です。

Lets Play Soccer!

L.Weber S.J.

レツツプレイサッカー

サッカー部副部長 L.ウェーバー

"How happy I am that I entered the soccer club!" were the words of a first year student when leaving the National Stadium after the game between Australia and Japan on March 21. I didn't ask him why he thought so, but I can easily imagine the reasons for it. I myself played soccer for many years in my youth, and I have never regretted that I did. In my opinion soccer is one of the most interesting, most healthy, and most useful sports. Soccer is a game in which both group play and individual play are fully developed and appreciated. Just think of the cheering fans when an attacking team approaches the goal in fast and perfect combination. Think of the player who, by bypassing one, two, three opponents, approaches the penalty area and with a swift shot sends the ball into the net. Or think of the keeper who, finding himself alone face to face with several opponents, saves his team from a defeat by courageously jumping on the incoming ball, preventing it from getting through.

Soccer is a manly sport. It requires a strong and healthy body, endowed with great endurance, a strong will not easily influenced by occasional feelings, and a great skill in reading the movements of both friends and opponents. Such things, however, are obtained only by long and hard training.

In order to like soccer one has to take its practices serious and be ready to make small sacrifices from time to time. Those who don't show up at the practice only because they don't feel like it or because it is a little cold, will never be good at soccer, nor will they ever know the joy experienced after a hard practice or after a good game. It is true that one can feel tired bodily, but how relaxed one is mentally, chiefly on Saturday afternoons after a long week of study. It is like resting in an 'oasis' in the middle of a vast desert.

Let's look forward to our days of practice as days on which we can forge our bodies, relax from our intellectual work, play with our friends, and enjoy our youth !

「本当にサッカー部に入つてよかったです。」これは、三月二十一日のオーストラリア対日本の試合を見終え、国立競技場を出る時一年生の口について出た言葉です。(訳者注 一年生とは二十四期のことです) 私は、どうしてそう考えたのかを聞きませんでした。けれども、その理由は私にも容易に想像できます。私自身若い頃から何年もサッカーをしていましたし、それにサッカーをしたことを後悔したことは、ただの一度だってないのですから。私の考えでは、サッカーは最もおもしろく、最も健康的で、最も有益なスポーツだと思います。サッカーは、その中でグループ競技と個人競技とが一緒に十分発達し、そしてその両方の真価が認められているゲームです。攻撃しているチームが、速くそして完全なコンビネーションでもってゴールを襲う時に喝采するファンの事を考えてごらんなさい。敵を一人、二人、三人、と抜き去り、ペナルティエリアまで接近し、すばやいシュートでボールをネットにたたき込むプレーヤーの事を考えてごらんなさい。あるいは、沢山の敵とただ一人面と向い、勇気あるジャンプでゴールに飛んでくるボールを防いで味方チームを救うゴールキーパーの事を考えてごらんなさい。

サッカーは男らしいスポーツです。そして、強く健康的で、その上忍耐力に富んだ肉体、又その時々の感情に容易には左右されない強い意志、そして敵味方両方の動きを読む力が要求されます。しかし、このようなものは、長くきびしいトレーニングによってのみ得られるものなのです。サッカーを好きになる為には、眞面目に練習をし、時々は自ら喜んでわずかの犠牲を払うことが必要です。余り練習する気がしないとか、少し風邪を引いたとかいうだけの理由で練習に出て来ない者は、サッカーが上手にはならないだろうし、又、厳しい練習や良い試合をした後に経験する喜びさえも知ることができないでしょう。肉体的に疲労するのは本当です。しかし、精神的にはどんなにカリラックスできることでしょう。特に一週間の勉強を終えた後、土曜の午後には、それは、あたかも広大な砂漠の真中の一つのオアシスで休むようなものです。我々の練習の日を楽しみに待ちましょう。肉体を鍛え、知的労働(勉強)から離れてくつろぎを、そして友と一緒にプレーをし、青春をエンジョイする、そんな日として……。

この文章は13頁掲載の "Let's play Soccer" の日本語訳です。大きな誤訳は無い積りですが、小さなミスでも御気付きの点が御座いましたら、お知らせ下さい。
(K・K)

●昭和45年度、20期編集『DASH』より

懐かしの栄光学園に恵みあれ！

イグナチオ・オレギ神父

先日教え子の高村君から手紙を頂きました。内容は、来年栄光学園のサッカー部発足五十周年になりますから、コメントを送って下さいと書いてありました。

私は、栄光学園に長く居ましたので、このことについて書いてみます。大袈裟でなく、思い出が一杯あり、すべてよい思い出が浮んできます。

私が栄光学園にいた時、丁度引越しの前で田浦の時代でした。この時、日本語の勉強をしていて、暇な時よくグランドに行きました。私はサッカーに非常に興味があつたし、大好きでしたので、生徒の練習ぶりを観ていました。ある日、東郷先生にお会いして、「サッカー好きですか」と言われ、「大好きですよ」と答えました。「サッカー部の手伝いをしてもらえないか」と言われ、私は「チャンスがあるのならば喜んで協力しますよ」と言いました。

その後、栄光学園は大船に移りました。十八期生の時からサッカー部と共に過ごし三十期生まで係わりました。その後、スペインに行き、司祭として日本に戻り、山口地区の司祭になり現在に至っています。こちらに住んでから栄光学園に二度ばかり行きました。私の所へ訪れてくれたサッカー部員もいました。とてもよい出会いでした。

思い起こせば、サッカー部と共に過ごした十二年間は本当に楽しかったです。

みていると私の頭の中にはそのままの姿が心の中に残っています。

現在の栄光学園の練習状況はわかりませんが……。当時練習時間は少なかったけれど、皆自分のサッカーができるよう

ソッカーが好きだからだけでなく、スポーツは人間にとつて非常に大切なものだと思っているからです。人間同志、友達を作るためにも、一人ぼっちにならないためにも、怠け者にならないためにも、やる気のない者にならないためにも、クラブに入つて活動することは大切なことでした。

私には一冊の本にできるくらい思い出があります。一番楽しかったのは、サッカーをやって栄光学園に入る一つのよききっかけになり、多くの生徒を知ることができたことです。医務の仕事をしていましたのでサッカー部以外の人との交流もありましたが、中でも特にかったのは、サッカー部との出会いでした。

最近日本のサッカーも進歩しましたと言われる時、私が「そうねエー、私達も日本に協力したのですけれど……」と答えますと笑われますが、日本へ来た外国人の人々の影響は大きいと思います。

サッカーによつて他校の先生や生徒とのふれあいがあつたことは、私にとりましてとてもよい経験でした。相模工業の先生、県鎌倉、鎌倉学園の方々も知り合いました。試合に行くのに生徒と一緒に電車に乘つたり、怪我をした生徒の見舞いに行つたり、多くの思い出があります。今は社会人になり、家庭を持つなつていると思いますが、当時の写真を

とを望んでいましたが、やる気があつたし、皆よく協力しあつたし、よい所がたくさんあったと思います。

栄光学園の保護者の方々、生徒の皆さん、そして先生方に感謝します。すべての家族の方のためにお祈りします。元気で頑張ってください、ありがとうございます。最後に、五十周年本当におめでとうございます。

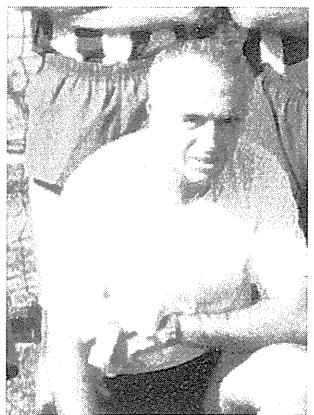
(2001.7.19)



19、20、21期を指導するオレギ先生

学院と栄光のサッカー部の思い出

レデスマ



試合でもとても必要であることも言い聞かせました。私は、1968年にサバティカンのためサッカー部の指導をやめるまで『サッカー道』を教え続けました。やめる頃には、学院サッカー部が職員や父兄の間だけでなく、他の学校の間でも、とても高い評価をうけていたことは、とても懐かしい思い出です。

5周年年誌への寄稿を依頼され、何を書こうかと考えましたが、これまでに指導したことのある2つの学校、広島学院と栄光学園のサッカー部を振り返り、今思ふことを書きたいと思います。

広島学院では、1~12期生まで、中学・高校サッカー部を指導する全権を任せられました。

私は、彼らのスタイルとサッカー部の精神・規律を、数々の困難を乗り越えながら、努力して作り上げました。そして、私も生徒達も「サッカー部は『サッカー道』である」とよく言つていました。『サッカー道』では、例えば、よく勉強し、学校の規則をきちんと守ることにより、自らを多くの先入観から解放することが出来ること、多くの恩師に出会うことが出来ること、そして、人間にとつて非常に大事な『意志力』を作ることが出来るなどを、生徒達が納得するまで何度も教えました。

そしてこの『意志力』は、サッカーの東郷先生のもと、私が指導することになりました。

23期生は、初めのうち反発・反抗しましたが、立派な生徒達でしたので、徐々にサッカー部のコーチを拝命しました。その当時、彼らを良く世話する素晴らしいOBがいましたが、サッカー部部長の東郷先生のもと、私が指導することになりました。

学サッカー部のコーチを拝命しました。そのOBがいましたが、サッカー部部長の東郷先生のもと、私が指導することになりました。

50周年、おめでとうございます。いつ

に私の指示に従つて一生懸命練習するようになりました。彼らを、ラス先生の広島学院の校長就任を祝うために、学院まで練習試合をするために連れて行つたことはとても良い思い出です。その後も『サッカー道』を教え続け、また、晴雨問わず生徒達と一緒に汗を流して練習しまし。その結果、中学サッカー部はとても強くなり、24~26期生が3年間連続で神奈川県で優勝しました。残念ながら、当時は長崎に転勤していたため、その素晴らしい功績を長崎から祝福しなければなりませんでした。

1978年、富田校長に呼ばれて再び栄光に戻りました。その時の中1は32期生でした。とても立派な生徒であり、また、倫理や聖書研究を通して、私と彼らの考え方が一致していたので、鎌倉市で優勝することが出来ました。

その後38期生まで指導しましたが、段々とチームのレベルが高くなり、県大会で好成績を残すことが多くなりました。学校数が非常に多い神奈川県で好成績を残せることは素晴らしいことだと思います。一つ残念なことは、栄光にいる間、県の高校大会では審判を何度もしたものの、高校サッカー部との接点が全然なかつたことです。

最後に、サッカー部の活動を通じて、非常に豊かで素晴らしい思い出を作るとともに、数多くの立派な少年達に出会うことになりました。また、多くの家族や他の学校の先生方とつきあうことが出来、心を豊かにすることが出来ました。

『サッカー道』の指導には、様々な苦労がありました。それでも良かつたと思っています。そして、生まれ変わって、若いうちに日本に来たら、もう一度『サッカー道』を実現していきたいと思ってい

うになりました。彼らを、格上の相手と戦つことなく戦い、時には勝つことで練習試合をするために連れて行つたことはとても良い思い出です。その後も『サッカー道』を教え続け、また、晴雨問わず生徒達と一緒に汗を流して練習しまし。その結果、中学サッカー部はとても強くなり、24~26期生が3年間連続で神奈川県で優勝しました。残念ながら、当時は長崎に転勤していたため、その素晴らしい功績を長崎から祝福しなければなりませんでした。

一方、栄光においても、この雰囲気作りを試みましたが、学院よりも難しく感じました。その原因には、時代の違いもあると思いますが、やはり、サッカー部の部長に、あまり指導の権限がなかったからだと思います。さらに、栄光には、

パーマンではないので、自分に与えられている全ての可能性の中から一つ、二つを真摯に選択しなければなりません。そして、選択したことを一所懸命、最後まで誠実にやり通すことが大切です。

2つめは、生徒達がサッカーに打ち込んだけれども、なかなか勝てないと思います。どの少年もスリーカー道を教え続け、また、晴雨問わず生徒達と一緒に汗を流して練習しまし。その結果、中学サッカー部はとても強くなり、24~26期生が3年間連続で神奈川県で優勝しました。残念ながら、当時は長崎に転勤していたため、その素晴らしい功績を長崎から祝福しなければなりませんでした。

1978年、富田校長に呼ばれて再び栄光に戻りました。その時の中1は32期生でした。とても立派な生徒であり、また、倫理や聖書研究を通して、私と彼らの考え方が一致していたので、鎌倉市で優勝することが出来ました。

その後38期生まで指導しましたが、段々とチームのレベルが高くなり、県大会で好成績を残すことが多くなりました。学校数が非常に多い神奈川県で好成績を残せることは素晴らしいことだと思います。一つ残念なことは、栄光にいる間、県の高校大会では審判を何度もしたものの、高校サッカー部との接点が全然なかつたことです。

最後に、サッカー部の活動を通じて、非常に豊かで素晴らしい思い出を作るとともに、数多くの立派な少年達に出会うことになりました。また、多くの家族や他の学校の先生方とつきあうことが出来、心を豊かにすることが出来ました。

『サッカー道』の指導には、様々な苦労がありました。それでも良かつたと思つています。そして、生まれ変わって、若いうちに日本に来たら、もう一度『サッカー道』を実現していきたいと思ってい

ます。

50周年、おめでとうございます。いつ

れて『サッカー道』を教えることが出来ました。

1つめは、最初から指導の全権を任せられて『サッカー道』を教えることが出来たからだと思います。その結果、生徒達